笑顔の学校

ひとりだち

可児市立西可児中学校
校報第１１号
令和５年２月１日
https://www2.school.city.kani.gifu.jp/nishikani/

忘れることのできない一曲

音楽は時に自分を振り返り、自己の成長を実感させてくれたり、過去の記憶を蘇らせてくれたりします。そんな中に、何年たっても忘れることのできない曲は誰にでも一つや二つはあるものです。「花の季節」というロマニー民謡を原曲とした曲は、私にとって一生忘れることのできない思い出深い曲です。今から40年以上も前のことになります。私が中学校2年生の時、卒業する3年生の門出を祝う会が全校で行われ、私たちの学年は合唱で先輩に感謝と祝福の思いを伝えることとなりました。「花の季節」はその中の一曲です。曲の前半部分に独唱があり、同級生のＫくんが歌うこととなっていました。ところが本番の数日前に体調を崩し、喉を痛めてしまったのです。直前に担当であったＨ先生から家に電話があり、代わりに歌ってほしいと頼まれたのです。一学年4クラス、当時の白川中学校は今の西可児中学校くらいの規模でした。多くの人を前にして一人で歌うという経験はこの時がはじめてです。なぜ引き受けたのか、どんな思いで引き受けたのか、当時の記憶は定かではありません。Ｋくんが体調を崩さなければ、歌う曲が独唱のあるこの曲でなかったら、誰かが代役に私の名前を挙げていなければ、その後の私の生き方や人生は全く違ったものになっていたのかもしれません。令和5年4月30日、京都コンサートホールにて男声合唱団ARCHERの第10回記念演奏会を行います。大学入学以来、合唱にのめり込んでいる私のルーツは、中学生時代の学年合唱で歌ったこの一曲にあります。

１月19日可児市文化創造センターａｌａにおいて、全校音楽会を3年ぶりに実施しました。全校合唱「絆」でエンディングを迎えた時、会場は夢の世界にいるような幻想的で、温かなとっても心地よい空気に包まれていました。令和2年2月28日、新型コロナウイルス感染症対策のため全国の学校が一斉臨時休業になり、コロナに対する十分な知識や情報もない中で、誰もが大きな不安を抱きながら長期の休みに入りました。その年の卒業式はそれまでそうであったように、卒業生や在校生の素敵な合唱によって、より感動的な儀式にと演出される予定だったと思います。しかし、コロナによって多くの学校でその願いは虚しくも奪われました。今回全校合唱で歌った「絆」は、3年前の春里小学校の卒業式で歌われる予定だった曲だそうです。また、指揮者の谷唯菜さん、伴奏者の近藤花音さんは、その時に

指揮、伴奏をそれぞれする予定だったそうです。今回全校合唱をするにあたって、曲は全校生徒の投票で、指揮者、伴奏者はオーディションで選ばれたことを考えると、神様がドラマチックな演出をしてくださったのではないかと思ってしまいます。3年間の成長を実感するとともに、義務教育課程9年間の万感の思いを込めて歌った生徒もたくさんいたことでしょう。

忘れることのできない一曲は、傷ついた自分の心を癒し、勇気を奮い立たせてくれるものです。心の中にそんな素敵な音楽をいつも響かせていたいと思っています。

校長　太田　紀宏